

診療の拠点担う広島大病院

脳の慢性疾患でけいれんや意識消失などの発作を繰り返す「てんかん」の患者は、国内に約100万人いるといわれています。このような現状を踏まえ、広島県では広島大病院内に開設された「てんかんセンター」が中心となり、地域の医療連携体制ができてつつあります。広島県のとんかん医療の現状や課題について、専門医である広島大病院てんかんセンター長の飯田幸治さんと広島県健康福祉局長の笠松淳也さんが、意見を交わしました。

(コーディネーターは広島大学術・社会産学連携室副理事 山内雅弥氏)

医療対談 てんかん治療の地域体制を考える



広島大病院てんかんセンター長

飯田 幸治さん

いいだ・こうじ 1965年呉市生まれ。90年広島大医学部卒業後、脳神経外科助手などを経てカナダ・トロント大小児病院でてんかん治療を研修。日本てんかん学会評議員。2012年から広島大病院脳神経外科診療准教授。14年1月から現職。

―病気の特徴は。また、治療技術はどう進化していますか。

飯田 てんかんは大脳の神経細胞が過剰に興奮し、突発的に意識消失やけいれんが起きる病気です。治療は抗てんかん薬を飲むのが一般的です。2006年以降は、副作用が少ない新薬が相次いで保険適用され、妊娠中の服用も従来薬より安全性が高まっています。

―手術という選択もあります。飯田 2、3剤の薬をきちんと服用しても2年以上、発作が抑えられない「難治性てんかん」の患者

経学の専門家がMRI診断や抗てんかん薬の調整をする2次診療(地域の中核病院など)、難治性の患者さんに外科治療などを施す3次診療(大病院やてんかんセンター)のネットワーク構築を

目指しています。広島県は、高度な専門医療のできる広島大病院があるため、他県に比べ治療水準が高い上、ネットワークも整いつつあります。それらをさらに、向上させていく必要があります。

飯田 広島県は治療技術の底上げができています。感じています。1次から3次までの医療機関

理解深める啓発さらに 飯田さん

医療連携のモデル構築 笠松さん

さんには、手術の検討を勧めています。最近では磁気共鳴画像装置(MRI)などの医療機器の進歩で、発作を起こす脳の部分(てんかん焦点)が見つけやすくなりました。広島大病院ではMRIのほか、脳磁図などの先進機器も使って、より正確に焦点の位置をつかみ、また手術中のナビゲーションシステムで安全性を確認した上で焦点を切除します。焦点の位置を正確に把握できた場合、手術による発作消失率は8割に上ります。

―広島県のとんかん医療の現状は。笠松 てんかんは、神経内科や脳神経外科、小児科などが関わるため、診療科間の連携が大切です。また、投薬などの日常的な診療や相談と、高度な検査や手術などができる医療機関の両方に、患者さんがうまくアクセスできる体制も不可欠です。

そのために、初診で病気を発見する1次診療(かかりつけ医)、神

のネットワークを十分活用できているかといえば、まだ課題があるといわざるを得ません。とはいえ、他県には3次診療を担う医療機関がない地域もあります。広島が

手本となる仕組みを構築し、全国に広げることも大切です。

笠松 広島県では、広島大病院を中心に患者さんがどこに住み、どこの診療科へ行っても適切な診断や治療を受けられる環境づくりを進めてきました。さらに、14年には広島大病院内にてんかんセンターが開設され、診断や治療に困っている多くの患者さんの包括的な診療に取り組まれています。てんかんセンターを中心とした地域の医療連携体制の確立を目指します。

―今後の取り組みは。飯田 専門医をはじめ医師会や県、教育関係者、患者とその家族、支援者らでつくる「てんかん診療医療連携協議会」を立ち上げる予定です。多彩な人材の参加で、



広島県健康福祉局長

笠松 淳也さん

かさまつ・じゅんや 1971年金沢市生まれ。千葉大医学部卒。97年に厚生省(現厚生労働省)に入省。広島県保健対策室長、厚生労働省血液対策課長補佐、同がん対策・健康増進課地域保健室長補佐などを経て、2013年7月から現職。

11月8日に市民フォーラム2015

「てんかんを考える」

はがき 〒730-0854 広島市中区土橋町7-1中国新聞ビル8階

メディア中国医療セミナーチーム
「てんかんセミナー」係

FAX 082(232)7977

電子メール event-2@media-chugoku.jp

※個人情報は聴講券の発送と、抽選にもれた方への通知(応募多数の場合)のために利用し、メディア中国が責任をもって管理します。

飯田さんと福山市にあるこども発達支援センター所長の伊予田邦昭さんを講師に迎えた市民フォーラム「てんかんを考える」(中国新聞社主催)が11月8日(日)に広島市中区の中国新聞ホールで開かれます。聴講を希望される方ははがき、ファクス、電子メールのいずれかで11月1日(日)まで(必着)にご応募ください。入場無料。定員は500人。応募多数の場合は抽選になります。

問い合わせ 082(236)2860

(土日祝除く9:30~17:30)

郵便番号、住所、名前、年齢、電話番号、参加人数、てんかんに関する質問(あれば)を明記してください。

※質問は講演や質疑応答の参考にさせていただきます。

広島大病院てんかんセンター
電話/082(257)1719
(広島大病院脳神経外科医局内)
受付/月~金曜日10~16時
HP http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/cyushinryo/tenkan/